

# 令和6年度 かほく市立大海小学校 学校評価最終報告書

経営目標	取組内容	主担当	評価の観点	達成度判断基準	児童の評価	保護者の評価	地域の方の評価	教員の評価	達成度(判定)	後期の方針性(改善計画等)	学校運営協議会委員による意見	
1	確かな学力の育成	学習指導部	ア「主体的に学びを深める工夫」を研究の重点とし、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を推進する授業づくりに努める。	授業において「主体的に学びを深める工夫」を意識して指導している。	教職員アンケート				100%	A	週案の活用や職員の相互参観、指導主事を招聘しての全体研究会を通して、ねらいを達成するための授業作りについて学び合う。	今後、子ども達は中学校で学んでいく。大人数の中であっても、しっかりと聞く力を身につけて欲しい。聞くことは、静かにすることではなく、理解することが目的だとと思う。なぜ聞くのかという意味も含めて子ども達に指導して欲しい。授業の中で、ねらいを達成できない子ども達へのフォローがあるのか気になった。授業以外の場での個別指導や基礎学力テスト等を活用し、学習に遅れがちな子ども達へのフォローの体制があるとわかり、安心した。
	イ タイムマネジメントを意識し、「振り返り」や「適用問題」の時間を確保する。		自分と考えを友達に伝えることができる。	児童アンケート	89%				A	「学びタイム」を含めた学び方が児童に身に付きつつある。自分で学習方法を選択し課題解決につなげることができている。小規模校だからこそ、今以上に一人一人が発言する場の確保と、児童に自分の考えを最後まではっきり話すことを意識させてていきたい。		
	ウ より主体的な学習となるために1人1台端末を効果的に活用したICT教育の実践推進		授業において、「振り返り」や「適用問題」の時間を確保している。	教職員アンケート				100%	A	学習の振り返りや適用問題(練習)の時間までが確保できる授業を目指す。児童に付けたい力を明確にして授業に臨み、児童同士の学び合いの時間を十分取れるようにする。		
	エ 家庭学習の習慣づけを図る。(10分×学年)	G I 当 G A 担	1人1台端末を活用した授業を計画的に行っていいる。	1人1台端末を活用した授業を週に1~2回以上行っているか				89%	B	授業において、日常的に1人1台端末の活用が進んでいる。児童の情報活用スキルは、年々向上している。一方、情報モラルや端末の使用時間に課題が見られるので、家庭への啓発が必要である。		
	オ 読書に親しむ習慣化を図る。	学習指導部	学年に応じた家庭学習の仕方が定着し、進んで取り組んでいる。	児童・保護者アンケート「自分の決めた学習時間を守って学習している」	85%	82%			A	家庭学習がんばり週間以外であっても、「10分×学年の時間学習している」、「自分で計画を立てて勉強している」かどうかを適宜確認し、児童の家庭学習の意識を高めていく。家庭学習の大切さについて教師が児童と共通理解し、日々の家庭学習について評価改善を行う必要がある。		
2	いじめ、不登校や問題構造の未然防止と特別支援教育の充実	生徒指導部	ア いじめや問題行動の早期発見・早期対応・事後の確認、継続指導(観察)を徹底する。	問題行動が起きる前に、児童と積極的に関わり、生徒指導主事を中心としたチーム対応で家庭と連携を図り、問題解決ができるようにしている。	教職員:「問題行動の未然防止に努め、問題行動が起きた際は、家庭と連携を図りながら、問題解決ができるようにしている」  児童:「いじめはどんな理由があつてもいけないとと思う」「いじめをしていない」  保護者:「学校のいじめの未然防止や早期発見の取組が伝わってくる」	100%	88%	91%	B	いじめが疑われる場合は、管理職、生徒指導担当などへの『報告・連絡・相談』を確実に行うと共に、事実確認や情報収集を適切に行い、組織的な対応を意識していくことを全職員で徹底していく。  いじめが疑われる場合は、学習面、生徒指導面、特別活動面など、いろいろな角度から原因を洗い出し、原因を分析する。いじめの未然防止のために、児童が「楽しい」と感じられる機会を増やしていくことを大切にすること。  いじめの未然防止や早期発見のための取組を保護者へも発信するため、前後期で1回ずつ、「なんでも話そうアンケート」を家庭への持ち帰りで実施する。	あいさつの声に元気がない子ども達に対して、「なぜあいさつが必要か」を伝えていくことが大切だと考える。あいさつによって、人とつながり、出会いが生まれ、人生がよい方向に向かうことを子ども達に伝えて欲しい。	
	イ あいさつを通して他者とのよりよい関わりを持たせる。		学校内で出会った人にあいさつができる。	児童・教職員アンケート	98%		91%	A	高い数値がでているが、実際は声が小さい児童やうつむいたまま通り過ぎる児童がいるのが現状。あいさつをしていないわけではないが、より主体的にあいさつができる大海っ子を目指して、児童委員会を中心全校へあいさつについて呼びかける等の機会を充実させていく必要がある。	複式学級について、先生の目が行き届きにくい等、マイナス面もあるが、複式学級の子ども達の人間関係の広がりや自主性の育成など、人数が増えることによるプラス面もある。そこに目を向けて次年度も複式学級の運営を頑張って欲しい。		
	ウ 配慮を要する児童への指導、支援の在り方(SSRの運用等)の共通理解を図る。		配慮を要する児童に対して、組織的に取り組めている。	教職員アンケート			91%	A	おおみルーム(SSR)のよりよい運用については今後も検討が必要。今年度は、SCとの個別面談を生かして、SCによる校内研修会を実施することができた。3学期には、授業の中でのSCの活用も行っていく予定である。	複式学級について、先生の目が行き届きにくい等、マイナス面もあるが、複式学級の子ども達の運営を頑張って欲しい。		
	エ 豊かな心をはぐくむ道徳教育の充実を図る。		道徳の授業を通して、道徳的な判断力、実践力が高まっている。	児童:「道徳の授業で、内容項目について考えている」  教職員:「道徳では、年間指導計画に基づき、計画的に授業を行っている」	97%			B	・どの学年も計画的に授業を進めている。 ・全学年で道徳の授業の公開や道徳だよりの発行に取り組み、保護者や地域の方々に道徳教育を周知することができた。 ・3学期も「考え方、議論する道徳」を目指し、授業づくりを行っていく。	複式学級について、先生の目が行き届きにくい等、マイナス面もあるが、複式学級の子ども達の運営を頑張って欲しい。		
	オ 豊かな心をはぐくむ道徳教育の充実を図る。						100%	A	・3学期も「考え方、議論する道徳」を目指し、授業づくりを行っていく。			
3	生活習慣の定着と運動能力の向上	保健安全部	ア 家庭と連携し、生活習慣の定着を図る。(早寝・早起き・朝ご飯、視力低下)	養護教諭と連携して、食育や視力低下防止の授業及び活動を推進している。	児童・保護者アンケート「朝食を食べている」	98%	100%		A	・朝食はほとんどの児童がきちんと食べている。家庭の教育力の高さが伺える。 ・はつび～貯金で就寝時刻やその他の生活習慣の様子を確認し、本人への声かけだけでなく、保護者への協力を積極的に仰ぐ。 ・はつび～貯金の習慣が定着している児童を紹介し、意識を高めていく。	大海小の子ども達の運動能力や視力の状況、生活習慣について気にになった。養護教諭の保護者への声かけやミニ健康指導などの取組がよいと思うので、今後も継続していくって欲しい。	
	イ 「体力づくり1校1プラン」による体力と運動能力の向上を図る。		「早寝・早起き・朝ご飯」、または「視力低下防止」を意識して生活で生きる。	学校独自の「はつび～貯金」の調査で就寝時刻を守ることが5日間のうち4日できた		88%		B				
	ウ 各学年で、スポーツチャレンジ取り組んだり、苦手種目を意識した活動を取り入れている。		各学年で、スポーツチャレンジ取り組んだり、苦手種目を意識した活動を取り入れている。	教職員アンケートの実施			83%	B	・マラソン大会や8の字大会に向けてチャレンジ週間を設け、体力アップを図ってきた。チャレンジ週間の際、児童はそれぞれの目標を決め、進んで体力アップの運動に取り組んでいた。			
4	教職員の働き方改革の推進	教務部	ア 業務の軽減、会議や行事の取組を工夫し、組織的運営を推進する。「四協」で取り組む	県全体で行っている勤務時間調査における勤務時間が昨年度を下回る。	勤務時間調査		【判断基準】 A: 45時間以下 B: 50時間以下 C: 60時間以下 D: 80時間以下	時間外勤務時間 31.5h	A	・日課の見直し、学期末の時間カット、会議の精選等を行ったことで、勤務時間内に教材研究や成績処理等を行うことが出来るようになってきた。今後も校内の働き方改革を進めていきたい。	日課の見直しにより、先生方の働き方改革が進んだようだが、行事等の精選をすることで、さらに勤務時間の削減ができると思う。	
5	コミュニティスクール事業の推進	学校コーディネータ 教務部	ア 地域素材を生かした学習に積極的に取り組む。	総合的な学習や生活科等で地域の素材や人材を生かした授業を行っている	教職員アンケート					・150周年記念式典では、大海の地域の特色を生かした教育活動の様子を参加者に伝えることができた。次年度は、より児童が主体となった活動になるよう、教育課程に位置づけ、計画的に学校コーディネーターと準備を進めていく。	150周年記念式典は、多く方が学校を訪れ、楽しんでいた。各地域の獅子舞の競演は見応えがあり、今後も行って欲しい。今年度の遠足時、地域のお年寄りとのグランドゴルフ交流がなかったのが残念だった。	
イ 「学校運営協議会」の効果的な運用、学校関係者評価を生かした学校経営を実施する。	総合的な学習や生活科等で地域の学習に楽しく取り組んでいる。		児童アンケート	97%			A					
ウ 家庭や地域との連携に際し、積極的に学校コーディネーターや学校運営協議会を活用している。	家庭や地域との連携に際し、積極的に学校コーディネーターや学校運営協議会を活用している。		教職員アンケート 委員アンケート			100%	A	・今後も学校運営協議会で出た意見や評価を基に、よりよい学校になるように、取組を考え実行していく。				